

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
岩本健良			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小林 大祐		金沢大学 文学部 人間学科 史学科 / 人間社会学域 人文学類 人間科学コース・フィールド文化学コース	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習(社会学調査実習)	KNZa-100401-1	12人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

担当教員が全体の大枠を企画・指導するが、学生一人ひとりが分析テーマを設定し、それに応じて複数の班を構成して、先行調査研究の探索と検討・データ分析を進めた。学生それぞれが役割を分担して運営した。班ごとに、また全体で、授業時間外や夏休み・冬休みなどにも自主的に折々集まり、プロジェクトの進行から、調査実習報告会の企画・運営、報告書の編集にいたるまで、学生が主体的に活動した。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

## 1. 調査のテーマ／領域：

社会階層と教育

## 2. 調査の内容／概要：

次の2つの調査の2次分析を中心に行った。

1. 調査名：1995年「社会階層と社会移動」全国調査；調査主体：1995年SSM調査研究会（代表者 盛山和夫）  
2. 調査名：2009年全国調査「大学の實力～教育力向上の取り組み～」；調査主体：読売新聞社

## 3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

1. 調査対象：日本全国の20～69歳の男女；標本数：A票4032、B票4032（他に威信票があるがここでは用いず）；サンプリングの方法：層化2段階確率比例抽出  
2. 調査対象：日本全国の4年制国公立大学（通信制のみの大学を除くすべての大学）

## 4. 主な調査項目：

1. 本人・父・母・配偶者の学歴・職業キャリア、本人の文化的環境・生活満足度・ジェンダー意識・政党支持・不公平感・子供の教育への意識、等。  
2. 国公立の別、創立年、入試別入学者数（一般、推薦、AO）、学生定員、学生数、学習環境、学生支援状況、標準修業年限卒業率、退学率、就職率、進学率、インターンシップ参加率、等。

## III. データ収集の方法と結果

## 5. データ収集（現地調査）の方法：

1. 回収法：訪問面接；素データ：すでにデータクリーニング済みの公開データを使用。  
2. 回収法：郵送法；素データ：報告書に資料として掲載の大学別データの数表を入力して使用。

## 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

1. 調査期間：1995年10月；調査地：全国（1995年以降、10年ごとに実施）  
2. 調査期間：2009年5月；調査地：全国（2008年以降、毎年実施）

## 7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

1. 有効回収数：A票2653、B票2704；有効回収率：A票65.80%、B票67.06%；多くの分析でほぼ十分なサイズであり、質的な面でも良好である。  
2. 有効回収数：529（国立81、公立62、私立386）；有効回収率：72.5%；回収率は高い。一部信頼度がやや低いと思われる項目もあったため、可能な項目についてはデータクリーニングや別資料との照合により修正した上で、信頼度が高いと思われる項目のみを分析に使用した。

## IV. データ分析の方法と結果

## 8. データ分析／解釈の方法：

PC版SPSSにより、単純集計、クロス集計とカイ2乗検定、t検定、分散分析、相関係数の比較、重回帰分析等、量的分析を中心に行った。

## 9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

## 10. 報告書刊行の予定と概要：

2012年3月に、受講した各学生の分析レポートと調査概要等を収録した報告書を刊行。  
金沢大学社会学研究室編 2012. 『社会階層と高等教育：『1995年SSM調査』と『大学の實力2009』を用いた2次分析』（社会調査実習報告書 第29号）金沢大学社会学研究室 99+iv p.